令和６年　第３回定例会　令和6年9月20日

一　般　質　問

QRコードから議会の映像が見れます▲

学校施設などの更なる安心・安全と未来のグランドデザインを!!

冒頭 学校施設は、松原の未来を担う子ども達が学習など長い時間にわたり滞在をする大切な施設です。昨年・本年と松原小学校・松原南小学校・松原東小学校などの「学校校舎の点検作業」や「通学路点検」に同行をさせて頂きましたので、そのことも踏まえて質問をさせて頂きます。

【学校校舎点検について】

小中学校の５年間の修繕予算を質問にてお聞きしました。

要望 直近５年間の修繕予算ですが、令和６年までほぼ横ばいの金額になっております。
本来、予算面においても修繕費が年々増加しなくてはいけないのではないかと私は思います。
どうか、予算調整の際に、必要な費用をしっかりと予算計上して頂く事をお願い致します。
松原の子どもたちは我々が責任をもって守るとの気概で、今以上の事故防止に努めて頂きたいと思います。

【大規模改修について】

問 今、河合小学校と松原西小学校の統合に向けた動きがある事をお聞きしておりますが、今後、市内の他の学校施設でも児童生徒数の減少により学校の統合なども考えていかなければいけない様になってくるかと思います。その場合、大規模改造で補助金や起債を受けた場合、それらの補助金などはどうなるのか教えてください。

答 国の補助金につきましては、国庫補助相当額を国庫に返納する必要があります。
ただし、廃校施設の有効活用を促進するため、一定の要件を満たせば、国庫への返納を要さない場合があります。
しかし、起債については、25年の償還期間内に学校としての機能を有しなくなった場合、原則としてその時点で繰り上げて償還することが必要となります。

要望 今回「学校施設などの安心・安全の取組」について様々お聞きをしました。
「学校施設の定期点検」については、出来れば点検を行う専門家の方に基準を設けて点数制などを導入し、優先度を示して頂くような仕組みを構築するなどの改善をして頂くことが出来れば、更なる安全性の確保と担当部局の労力の低減を図ることが出来るのではないかと思います。

次に伺いました大規模改造工事に関しましては、大規模改造工事には補助金や起債などを使用するため、一度行うと２５年程度は学校施設として使用し続ける必要がある事もお聞きしました。
これから先の少子化による児童生徒の減少に伴い、どの学校をいつ統合し、どの学校を廃校にするかなどの学校統合も含めた松原全体の１０年２０年３０年先を見据えたグランドデザインの構築をお願い致します。

また、その計画には「施設一体型小中一貫校」を含んだ夢のある内容にして頂けることを強く要望いたします。施設を一体化することは、維持管理費の低減の意味合いからも有効であると思います。
市民がワクワクするような松原の未来のグランドデザインを描き進めて頂けることをお願いいたします。

高齢者施策の更なる充実を!!

冒頭 令和６年版高齢社会白書によりますと高齢化率は上昇を続け令和１９年に33.3%となり、国民の３人に1人が６５歳以上の方になると予想がされております。
「健康寿命の延伸」には、高齢者が生き生きと様々な社会参加を行いながら日々の生活を送ることが重要と思います。
本市では「きらり活動」を通して、高齢者が様々な活動に参加を出来る機会を設けて頂いておりますが、更なる高齢者の社会参加に向けての「きらり活動」の今後の展望をお聞かせください。

【投票支援について】

問 高齢者の方が増えている現状である為、他の自治体などで手が震えて文字が書けないなどの方への配慮を様々な形で行っている記事をよく見かけます。
今現在、松原市では障害や高齢化によって文字が書きにくいなど、支援が必要な方に対して、投票の際にどういった対応をされていますでしょうか？

答 代筆が必要な場合は、職員２名が付き添いながら代理投票を行うなど、相手の意思を確認しながら対応しております。

問 他の市町村で導入が進みつつある、サポートを希望する「投票支援カード」や、意思表示をしやすいイラストを活用した「コミュニケーション・ボード」などを使って、サポートをして頂いている市もあると伺っております。
投票においても安心をして意思表示が出来るよう、是非とも他市の状況も研究して松原市でも検討をお願いしたいと思います。

答 「投票支援カード」やイラストを活用した「コミュニケーションボード」につきましては、
先行事例も参考に検討していきたいと思います。

⇒早速、今回の衆議院議員選挙より導入をして頂きました！オモテ面「Pickup」参照！

【きらり活動について】

問 今後、きらり活動事業について、発展させていく予定などはありますか。

答 今議会で介護予防アプリの導入に要する費用の補正予算を計上させていただきました。アプリの導入により、これまで以上に高齢者が活躍できる場所の拡充を進め、きらり活動員の増加に努めてまいります。

問 アプリを導入することで、きらり活動事業がどのように充実するのですか。期待される機能などお聞かせください。

答 ボランティア等の参加確認について、これまで紙による管理を行っておりました。
アプリ化により、QR コードを読み取ることで、きらり活動の確認ができることから、受け入れ機関においても簡素化が可能となります。
また、現状の紙により行っているポイント付与や管理が行える仕組みとなることから、血圧・体重といった記録やスマートフォンの歩数計の機能を活かしたポイントの付与など、ポイント獲得をモチベーションの一つとして介護予防への取り組む皆様がさらに増えることを期待しています。

要望 今まで、諸先輩方の時代から会派をあげて「きらり活動」には力を入れて参りましたので、今回のアプリの導入により「きらり活動」が活発になる事は非常にうれしく思います。
このアプリの普及自体が、高齢者の皆様の「介護予防・健康寿命の延伸」につながるのであれば、松原市の未来像すら変えて行けるものになると思います。
以前に行っておられました「スマートフォン購入助成」なども検討をして頂けると、更に普及が出来るのではと思います。
どうか、松原の高齢者の皆様が一日でも長く元気で希望をもって過ごせる様、しっかりと「高齢者施策」を進めて頂けることをお願いいたします。